ふるさとの

第四集

かたりべ

◀嘉瀬妙光庵蔵寺宝御曼陀羅地獄絵（部分）

発行　嘉瀬ふるさとを探る会

古墨の
かたち

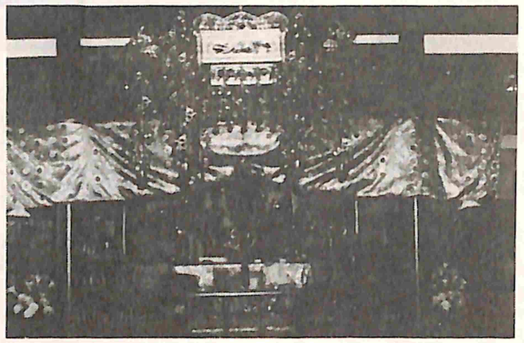
妙光庵寺物

◀ 土岐保正寄進幽霊絵図

▲ 閻魔婆爺像

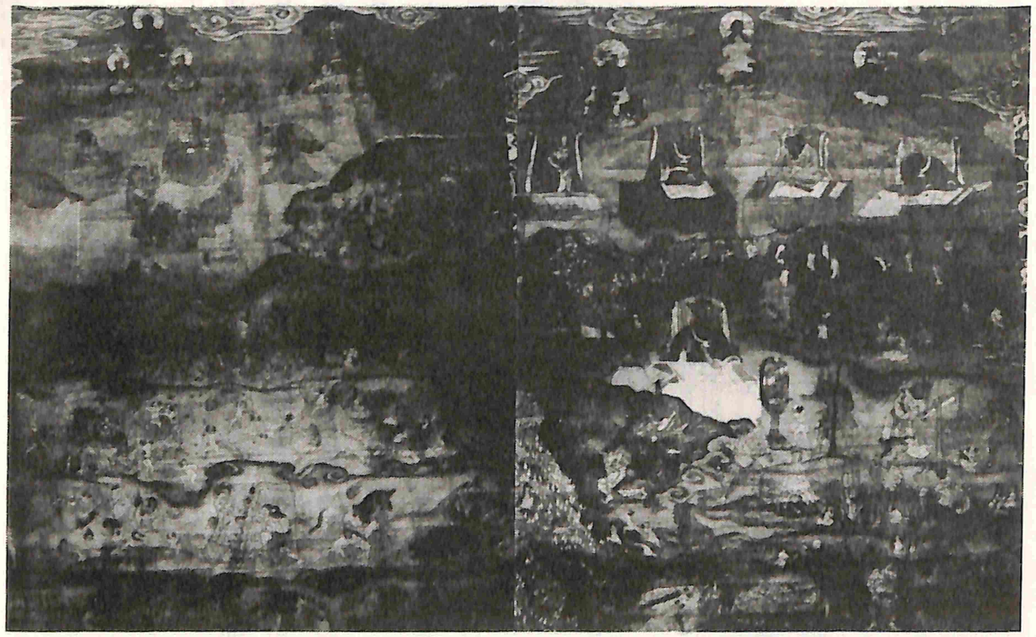
▼ おびんづる様像

◀ 賽銭箱



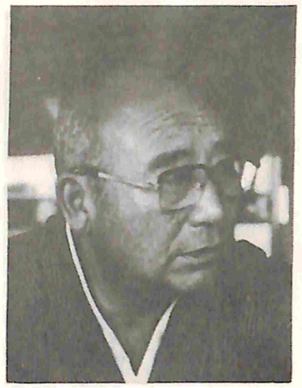
▲ 本　堂

▼ 曼陀羅地獄絵全図二幅

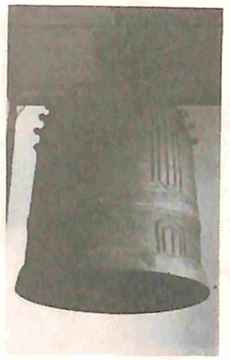


表紙解説

妙光庵の曼陀羅地獄絵



▶妙光庵二十一世住職
木村清海氏



▶寺鐘　釣鐘銘日
天道是非知是非
知雍鉄失洪基清
看庭上梅樹馥郁
却多苦節咏梅疲
文政六末歳　治工弘前
坂本久右ェ門俊宗造
施主　鳴海善七
西松勘右ェ門
大治
小治
巳之

今回の表紙絵は、妙光庵（宗派浄土宗）の寺宝「御曼陀羅の地獄絵図」の一部分で、この世とあの世の境、三途の川を渡った亡者を、閻魔大王が、死者を審判し罰するため浄破離の鏡の前で目方にかけている図、現世に於ての人間の罪が如何に重いかを現わしており、それぞれの罪の重さによって地獄の責め苦が負わされるというのである。

この御曼陀羅は、〝当庵十四世〟とあり、天保九年（一八三八年）の作と思われ、妙光庵十四世の庵主（氏名不詳）がこの寺に持込んで爾来現在まで伝わってきたものと思われる。また、この庵寺には、文政六年（一八二三年）未歳と刻まれた釣鐘（治工、弘前坂本久右ェ門俊宗造）や天保六年未年七月と記された参銭箱なども備付けられ、相当古いお寺であることがわかる。

御曼陀羅の御開張は、毎年正月とお盆の二回、妙光庵に於て行われている。

第二十一代庵主木村清海氏より取材

（注）曼陀羅（まんだら）＝「本質を有する」を意味する梵語の音写で、はじめは仏教儀式を執行する土で築いた壇をさしたが、のち、仏、菩薩の集りや、人間の本来有する菩薩心には仏のあらゆる功徳が備っているとする「輪円具足」の意となり、さらに転じて、仏、菩薩などの尊像を絹や紙に図絵したものをさすようになった。

世界原色百科事典より

▲山中正津記▼

【巻　頭　言】

路端（ミチバタ）の石ころにも

金木町教育長　高橋元彌

あれは、たしか今年の一月上旬のことでございましたでしょう。雪は大分積っていましたが、降り止んで、静かな晩でございました。金木俳句会砧吟社々主である平井機炎さんが、久し振りに上から帰られたので、お宅にお邪魔して、初春句会を催すことになりました。私も、新参でございますが、仲間に入れていただいていますので、長内〝骨師や田村千子先生方と参加致しました。

開会まで、一寸時間がございましたので、お座敷の本棚から遇然みつけたのが、「かたりべ」の第三集でした。その時まで、私は不勉強で、このような地方の歴史を堀り起すような、立派なものがあるとは、つゆ知らなかったのです。嘉瀬の方々は流石だなァと、感心しながら、読ませていただきました。傍で沢田一歩さんが、ご自分でも長文の作品を書いて居られるので、太宰流に表現すると、少し含羞の様子を見せながら、「かたりべ」という書名は一寸大袈裟でねべが、と申しました。その場に居合せた沢田一耕、須崎まさとしさん方、皆様参加しているようでした。

先日、陸奥新報社の〝つがるの夜明け〟全四巻を通読してみても、わが故郷の中世・近世の史料が、他の地方に比して、大変不足しているように感じました。歴史的地方の時代などと言われながら、私達の祖先のさゝやかな歴史は、だまって鎮守の森の中や、路端（ミチバタ）の名もない石ころに、隠されているのかも知れません。しかし、これからこの郷土を背負っていたゞく若い方々には、もっともっと自分を育くんでくれた土地の歴史を知ってもらはなければなりません。吾々の郷土の先人の足跡を知ることは、そのまゝ土地に愛着を感ずる第一歩ではないでしょうか。

そのような意味におきまして、「かたりべ」の次々に刊行されてゆくことは、実に心強く、関係皆様のご苦労に対し、深く感謝を申し上げますとともに、その企画の益々深く広く発展されんことを心からお祈り致す次第です。

尚、之は的外れの提言かも知れませんが、町村合併した現在、金木、嘉良市をも仲間に入れていたゞくというのは、如何でしょうか。関係者のご一考を煩わしたいと存じます。

以上、巻頭言になっているかどうか、心もとない次第ですが、一言述べさせていただきました。

かたりべ 第四集 目次

表紙　曼陀羅地獄絵（部分）……(2)
表紙解説　妙光庵の曼陀羅地獄絵……(3)
巻頭言　路端の石ころにと　金木町教育長　高橋元彌……(6)
『ふるさとを探る会』の歩み……

＝題字＝
金木町　蒔田書道師範　吉田清作　書

私と山中利一の群像……秋元惣之進(56)
角（かど）の利一
①写真……山中正津(60)
②信（のぶ）礼（れ）……須崎正敏(60)
③形見の時計……沢田薫(61)

嘉瀬考その一……木下巽(10)
ふるさとを探る(2)＝十和田様＝……山中正津(14)
踏査紀行……木村治利(26)
若い頃の漫遊……小山内嘉一郎(24)
藪晩（やばん）み余聞　観音山から嘉瀬を眺めて……秋元惣之進(50)

特集　紙上討論ゼミナール(38)
米糠三升　花田柾五郎　秋元惣之進
津軽ネプタ　木下清一　木村治利
太田忠光　原田万治
吉崎正光　青山兼四郎

柿本人麻呂の伝記（中編）……外崎三千男(63)
玉ノ井村右ェ門をさぐる……原田万治(71)
奉加帳嘉瀬今昔……きのした清一(80)

スケッチ嘉瀬
きのした清一……(33)

＝嘉瀬話＝
①冷たい糞……(37)
②観音様……(49)
③ナバレなして……(70)

＝昔の農具＝
①稲こぎ機……(25)
②踏車……(49)

＝山のオキテ＝
①焚火・口笛……(32)
②股木……(70)

＝日本プロボクシング事始め……(62)
新興スポーツ　プロボク青森大会
＝例会の一コマ＝……(22)
大宰治も嘉瀬の人

昭和五十八年度版（第三集）かたりべ誌友録……(116)
＝読者の声＝　人丸の石をたずねて……(118)
山中家「蔵書目録」……(119)
嘉瀬の皆さんへ……(120)
赤鉛筆……(120)

『ふるさとを探る会』の歩み

昭和五十五年四月二十六日＝第四回定期総会（土岐保正宅午後七時より）事務局長木下巽より木下清一に引継ぎ承認される。他の役員は留任、会員二十二名。

昭和五十五年五月十一日＝二ツ森遺跡調査及び観音山に植樹。

昭和五十五年六月二十八日＝定例会、払下げ丸太（村内の史蹟や古蹟跡に標木を設置するための材料、金木営林署より払下げを受けたもの、丸太二十七本五石）の製材方法、設置予算、作業日程等を討議。

昭和五十五年七月二十六日＝役員会、史蹟標木の設置場所及び設置土地の地主の承諾、丸太の製材作業日程を確認。

昭和五十五年八月九日＝古川製材所で丸太の製材、会員の労力奉仕で材料運搬、午後七時までかかる。

昭和五十五年八月十六日＝二ツ森附近の遺蹟発掘調査を実施、参加者六名。

昭和五十五年八月三十日＝役員会、標木材料が短かいため、設置基礎の検討、コンクリート等材料購入等を討議したが、予算不足のため今年度設置を断念、町よりの助成金をあおぎ、次年度に設置することを確認。

昭和五十五年十一月二十九日＝幹事会、史蹟標木への記載文、揮毫者の依頼、会員研修会実施の日程等をきめる。

昭和五十五年十二月一日＝須崎英美工務店へ史蹟標木、掲示板等の製作依頼。

昭和五十五年十二月十八日＝役員会、史蹟標木記載文の校正と十一月二十九日の幹事会打合せ内容を再確認。

昭和五十五年十二月二十七日＝吉田清作史蹟標木に揮毫す。

昭和五十五年十二月二十八日～二十九日＝会員研修会、弘前地区史蹟めぐり調査研究。長勝寺ー古懸の不動尊等、参加者十一名。

昭和五十六年三月七日＝役員会、郷土研究機関紙又は記録集を発行することが企画される。町よりの助成、発行予算等を討議。

昭和五十六年三月二十八日＝役員会、町よりの助成金五万円の目途がつき、史蹟標木設置作業の日程を確認。

昭和五十六年四月十一日＝標木設置準備作業のセメント、砂利、砂等の材料購入。

昭和五十六年四月十九日＝全会員に協力を要請。嘉瀬小学校（嘉瀬村役場跡）跡。嘉瀬小学校創立の地跡。下の切り古道（中山道）跡。金木古道跡、東館跡。西館跡。人丸神石安置跡に史蹟標木を設置する。

昭和五十六年四月十九日＝史蹟標木設置後、第五回定期総会を白川食堂で開催。役員改選の結果、新会長木村治利に、副会長に原田万治が選任され、郷土研究記録誌の編集委員長に木下清一が決り、六月に研究誌を発行することに決める。

昭和五十六年五月八日＝役員会、郷土研究記録誌の原稿締切り、編集内容を確認、青森コロニー印刷に発注することに決める。

昭和五十六年五月二十八日＝中柏木城跡地確認の探索調査実施（参加者十名）するも未発見に終る。

定例会、郷土研究記録誌の表題名を協議した結果、『ふるさとのかたりべ』（山中正津提案）と決定。組織体制強化のため、役員の中から事業部長須崎正敏氏、広告部長木立久二と各委員数名を選任す。

昭和五十六年五月二十九日＝第一集『ふるさとのかたりべ』第一次校正。

昭和五十六年六月五日＝第一集『ふるさとのかたりべ』第二次校正。

昭和五十六年六月十三日＝『かたりべ』第一集完成。発刊祝宴、会員十四名出席、第二集の発行を確認し合う。

昭和五十六年七月一日＝『かたりべ』助成金十万円、史蹟標木設置及び活動費助成に五万円、金木町より交付される。

昭和五十六年七月二十八日＝定例会、夏季研修会と中柏木地区実施踏査の企画を協議。

昭和五十六年八月一日＝中柏木地区実地踏査を実施。郷土史研究家佐野洪の指導のもとに、神社、墓地を調査後、地物・地形を基点として掘跡等を確認、古文書・言い伝いによって中柏木城跡地を確認す。

昭和五十六年八月六日＝役員会、嘉瀬出身（東京在住）会社々長湯本正美氏帰郷、激励援助を確約。

昭和五十六年八月十八日～十九日＝会員夏季研修会実施、舘岡考古館ー西の高野山ー大石神社ー赤倉神社ー高照神社ー西目屋弘西林道ー種里城ー北金ケ沢大銀杏ー亀ノ甲松ー板碑（十二名参加）。

昭和五十六年八月二十九日＝役員会、研修会の反省とかたりべ第二集原稿依頼の企画について討議。

昭和五十六年十二月十二日＝会員親睦忘年会（於川倉老人センター）

昭和五十六年十二月二十八日＝定例会、村内の史蹟・遺物等の調査討議。『かたりべ』編集企画について検討。

昭和五十七年二月六日＝『かたりべ』編集会議。第二集発行の原稿テーマの企画。

昭和五十七年二月二十六日＝町教育委員会に『かたりべ』助成金を陳情するも、五十七年度の査定と聞かされる。

定例会、郷土の史蹟・伝承・口碑・古文書の発掘に努めることを企画する。『かたりべ』助成について、明日再度町に要請することを確認する。

昭和五十七年二月二十七日＝町助役・教育長に木村会長・木下編集長が再度『かたりべ』助成について陳情。昭和五十七年度予算に計上の確約を得る。

昭和五十七年三月二十八日＝村内を探索、地蔵尊等の写真撮影取材（木下編集長）。役員会『かたりべ』第二集の編集取りまとめ討議。

昭和五十七年四月二十二日＝役員会、定期総会提出の議案検討作成。

昭和五十七年四年二十四日＝第六回定期総会開催、役員留任、事務局の一名増を決める。

昭和五十七年四月二十六日＝役員会、事務局に沢田勝衛を選任。

昭和五十七年四月二十七日＝編集会議、かたりべ原稿の校正及び割付けの整理。

昭和五十七年五月十日＝編集会議、『かたりべ』取材写真の選択、表紙、頁数の検討協議。

昭和五十七年五月十五日＝『かたりべ』第二集割付け完了、八戸プリン

ト（嘉瀬出身沢田孝氏）へ発注。

昭和五十七年五月二十三日＝津軽風土記劇団『レオ』の見学と交流（木村・木下・木立出席）

昭和五十七年六月十二日～十三日＝『かたりべ』第二集第一次校正。

昭和五十七年六月十四日＝定例会、会員夏季研修会実施計画案の検討。

昭和五十七年六月十九日＝『かたりべ』第二集第二次校正。

昭和五十七年六月二十三日＝『かたりべ』第二集第三次校正。

昭和五十七年七月四日＝『かたりべ』第二集完成、発刊記念パーテー（於・白川食堂）

昭和五十七年七月二十一日＝木村会長、嘉瀬ふるさとを探る会を代表して、会の活動状況について、ＲＡＢテレビ放送『今日のインタビュー』に出演。

昭和五十七年七月二十四日＝村内めぐり実地研修踏査実施。小栗崎ー磯崎神社（中柏木）ー二ツ森ー観音堂等。

昭和五十七年七月二十八日＝定例会、夏季研修会の日程協議。

昭和五十七年七月三十日＝東奥日報社編集局次長長谷氏『いごく穴』取材に来訪。

昭和五十七年八月七日＝観音山（立山）附近一帯の神社・石碑実地踏査（観音堂内に於て反省会）。

昭和五十七年八月二十日～二十一日＝会員夏季研修会。田舎館資料館ー垂柳遺蹟ー青森入内石神神社（尾上荘泊）

昭和五十七年八月三十日＝『嘉瀬ネブタ愛好会』と、ふるさとのネブタを考える集いを嘉瀬公民館で開く。

昭和五十七年十一月二十九日＝定例会、『かたりべ』第三集の企画と原稿依頼の方法について協議。

昭和五十七年十二月二十九日＝会員親睦忘年会（於・五所川原市鯉川旅館）

昭和五十八年一月二十八日＝定例会、『かたりべ』第三集原稿整理および発行を五月とすることに協議。

昭和五十八年二月二十五日＝定例会、新加入者二名を承認。

昭和五十八年四月十日＝役員会、定期総会の日程および提出議案審議。

昭和五十八年四月二十三日＝第七回定期総会（於・五所川原市千楽食堂）役員留任。

昭和五十八年五月十六日＝『かたりべ』第三集を八戸プリントに発注。

昭和五十八年五月二十八日＝定例会、沢田政孝氏所蔵の仏壇の来歴を調査。

昭和五十八年六月十一日＝『かたりべ』第三集第一次校正。

昭和五十八年六月十九日＝『かたりべ』第三集第二次校正。

昭和五十八年七月一日＝『かたりべ』第三集発刊。

昭和五十八年七月二日＝『かたりべ』第三集発刊パーティー。

昭和五十八年七月九日＝人丸神石碑嘉瀬八幡宮遷座五周年例祭を実施。笹木神官の祭詞により取行い、来賓者町議会議長秋元武治氏、金木町助役嘉瀬農協組合長吉崎忠直氏、町教育長、嘉瀬小学校長。

昭和五十八年七月二十六日＝定例会、村内史蹟調査めぐりの日程等協議。

昭和五十八年七月三十一日＝小田川山国有林内湯ノ沢地蔵尊一帯の実地踏査大雨のため中止。

昭和五十八年九月七日＝役員会、夏季研修会実施について協議。

昭和五十八年九月十一日＝定例会、夏季研修会は金木町内実地踏査することに決定。

昭和五十八年九月十五日＝金木町内史蹟実地踏査実施。妙光庵ーヒバ神木（喜良市十二本ヤス）ー十和田神社ー湯の沢五輪の塔。

昭和五十八年十月三十一日＝青森県立図書館より『青森県内出版物総目録（昭和五十八年版）作成のための調査依頼ある。

昭和五十八年十一月二十八日＝定例会、『かたりべ』第四集の企画討議。

昭和五十八年十二月十六日＝会員親睦忘年会（於・五所川原市玉龍）

昭和五十八年十二月二十六日＝『かたりべ』編集委員会、第四集の編集方針を企画。

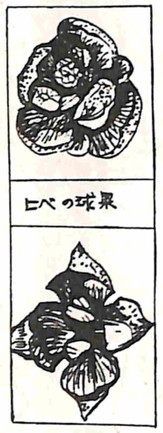
昭和五十八年十二月三十日＝国会図書館発行の日本図書誌（週刊版）に『かたりべ』登録される。

昭和五十九年一月二十三日＝定例会、嘉瀬公民館に於て、昭和五十九年度の調査予定地の検討。

昭和五十九年二月二十八日＝定例会、かたりべ原稿〆切りについて討議。（於・白川食堂）

昭和五十九年三月十五日＝定例会、総会準備会、昭和五十九年度の踏査研修予定地を検討。

昭和五十九年四月二十五日＝嘉瀬ふるさとを探る会定期総会（於五所川原市内）。役員留任。かたりべ編集委員長に山中正津選出される。



結成の発端

ふるさとを探る会

嘉瀬小学校創立百周年記念として、『百年史』を刊行するため編集委員が構成され、山中正津編集主幹のもとに、学校の資料、地区内の資料をあさり、昭和五十二年二月十日『嘉小百年史』が刊行された。

編集慰労会の席上、刊行された百年史の内容を分析、学校関係資料はまあまあとして、『むら』の成立とその『歩み』に、誰もが蒐集資料不足の、もの足りなさを感じて居た。誰言うとなく、もっと『むら』のできごとを掘りさげてみようという気運が盛り上り、有志に呼びかけ、昭和五十二年四月二十八日組織。

まず、清久溜池崎に安置してあった、人丸（柿本人麻呂）碑の調査研究から会が活動した。